

魔王

「風の夜に 馬を^か駆り^{かけ} 駆けりゆく者…」

北校舎3階から低音の響き。中1の音楽ではシューベルトの“魔王”を鑑賞していました。音色（声色）、旋律、どう感じたか…ワークシートに記入しておりました。魔王について「優しそうだけど不気味に感じた。」子供について「パニックになっていることが伝わってきた。」などの記述がありました。

実は、私が中1の時代に鑑賞し驚愕した曲です。

語り手が物語をいざない、魔王におびえる子供、その子供を連れて行こうとする魔王、魔王のことが見えない父親の三人のメロディーが代わる代わる歌われていきます。つまりは歌手が一人で四役をこなす。父へ魔王の存在を懸命に訴える子供、気のせいだと枯葉の音や柳の音だと子供の心配を払しょくしようとする父。物語が進むにつれ、やり取りの激しさが増していきます。特に印象に残っているのが、悪役であるはずの魔王のメロディーを明るい長調で優しく歌い上げているところ。その優しさが、いたいけな中1の小澤少年の心を余計に縮み上がらせました。そして遂に「お父さんおとうさん 魔王が今 僕を連れてさらってくよ」という衝撃的な展開。驚愕と恐怖が 干渉し強め合いました。あの頃を思い出しながら久しぶりに鑑賞しました。「お父さんお父さん 魔王が今坊やをつかんで連れてゆく」おや？ 今流れている魔王の歌詞が、私の記憶している歌詞と異なります。あまりの衝撃に思い出をもつかんで連れていかれたのでしょうか。

次の時間、体育館へ向かい「風の夜に…」と鼻歌交じりに歩いていると、太い声で「まおう」と響いてきました。続いて「バシン」との音が。馬に鞭打つ魔王の仕業か!?慌てて駆け寄ると

「間を とって、ぶつからないように!!」むむむ「まを」思い込みによる聞き違い、3年生の柔道の受け身の授業なのでした。受け身は投げられたときの痛みを 緩衝し、ケガから自分の身を守るための柔道の基本です。教師からの説明を聴く姿は、正座にピッと伸びた背。ひとつひとつの振る舞いが柔の道を駆けりゆくようにも見えます。



誰にとっても試験は“魔王の住む場所”緊張により、頭が真っ白になる、勘違いするなど力を発揮できなかったということもしばしば。“魔王が住む”ではなく“魔物が住む”と言いますね。来週から期末テストが始まります。学びを深めるためには、アウトプットが効果的です。3年生の数学では、魔物に立ち向かうため、問題演習、即ちアウトプットを“教え合い授業”という形で展開していました。教えることで抜群に脳に刻まれていきます。

英語検定。これまた魔物が住む場所。放課後の会議室では二次対策が行われていました。二次の面接試験は、筆記試験より更に緊張します。緊張という魔物に屈しない力を養成しています。

シューベルトは自身が作曲したピアノ曲“さすらい人幻想曲”を披露する機会を催し、あまりの難しさにミスタッチを連発。演奏を中断し「こんなものは悪魔にでも弾かせろ!」と怒鳴り、楽譜を破ったといわれています。「歌曲の王」として知られ、31歳という短い生涯でありながら600曲以上、未完成の曲を含めれば1000曲以上を作曲しました。彼自身の中に潜む悪魔のような激しい感情、つまり魔物が彼を突き動かし創作へと導いたのではないのでしょうか。



実は、“魔物”は自分の中に存在し、それは自分を高めるきっかけとなる“磨物”なのです。